

わかやまをつくり守ってます。

わかやまの建設

道路やトンネル、ダム、橋などを作り、災害をふせぐ「土木の仕事」と、工場やマンション、大型スーパーなどをつくる「建築の仕事」。わたしたちの安全で便利なくらしを支えているこの2つの仕事をあわせて「建設の仕事」といいます。いつも歩く道、わたる橋、海や川の水をせき止めるダムやていぼう、学校や図書館・病院など、あたり前のようにあるものばかりだけど、実は全部「建設」の力でできているんです。

第16回

建設のしごと 「観光もできる 足湯付き津波 避難タワー」

津波の危険がある地域に建てられる津波避難タワー。通常は非常時にしか上ることがありませんが、那智勝浦町にできた「築地地区津波避難タワー」は、ふだんから24時間出入りでき、上から海を見渡せるほか、1階には足湯もあり観光スポットとしても親しまれています。景観になじむ和風の外観や、停電時にも使えるコンセント、車椅子に対応したスロープなど、建設の技術と工夫が詰まっています。

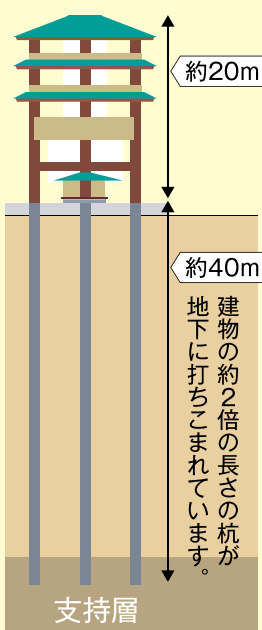


柱や屋根の色から、那智山青岸渡寺の三重塔のようにも見える避難タワー。最大400人が一時的に避難できる広さといざという時の備えを整えています。足湯付きは日本でここだけ！

こんなこと知ってる!?

命を守る地下40メートルの秘密

築地地区津波避難タワーは一番上の4階でも高さは約20メートル。でも、地面の下にはなんと約40メートルもの深さまで杭が打ちこまれているんです。この場所は海に近く地面がやわらかいため、かたい支持層までしっかり届かせる必要があります。潮の満ち引きも計算し、地元の漁業に影響のないようドロの処理にも気を配りながら打ちこまれた1周1.88m、直径なら60cmほどの杭が11本。そのゆるぎない支えが、見えないところでみんなの命を守っています。



車いすでも上られるよう、建物の外側にはぐるぐる回るスロープを設置。工場で作った部品をクレーンで持ち上げて現場で正確に組む作業には細かな注意が必要でした。



この人に聞きました

避難タワーの足湯にもたまに行きます。リラックステキるのでおすすめです！



ひがし しょうご
東 昭悟 さん
紀宝町立井田小学校卒

見える形で「地域の役に立つ」仕事

住んでいる地域の役に立ちたいという気持ちで私は建設の仕事を選びました。どんな仕事でも人の役には立てるけれど、建設の仕事は作ったものが形になって身近な場所で長く使われます。たいじの道の駅や串本の役場など、自分の関わったものがたくさん地域にある。そう考えるとおもしろい職業だと思いませんか？

プレゼントコーナー

【生徒のみなさんへ】

担任の先生にお願いして、クラス全員や学年全員の数で申しこんでもらってください。(ご担任の先生、よろしく願いいたします。)

【先生方へ】

生徒の皆さんに配布していただける場合はクラス全員や学年全員の数で申しこんでくださいますようお願いいたします。

申込方法 「学校名・クラス名(学年名)・冊数・住所」をファックスください。
Fax.073-436-2567 (一社)和歌山県建設業協会まで。

(一社)和歌山県建設業協会は「わかやま探検ミュージアム」を応援しています。



新しくなって、さらに安心・納得!
社員と家族、会社を守る為に。
建設共済保険
法定外労災補償制度
公益財団法人 建設業福祉共済団

手厚い補償
保険区分合計
最高5,000万円

契約者
割戻金制度
により
掛金負担が軽減

労働者と企業の
リスクを
カバー

今すぐ、
ご加入を!

割戻金の支払いが始まっています。